

第1回 おいしい水づくり推進懇話会 ＝ 議 事 録 ＝

日時：平成19年7月10日(火)

午後2時から午後4時30分まで

場所：水道局幕張庁舎2階特別会議室

1. 開会

○事務局より開会宣言、配布資料説明、座長・副座長の紹介

2. 座長、副座長挨拶

3. 議題

各議題の概要及び質疑・主な意見等は以下のとおり

(1) 懇話会の趣旨説明（設置要綱及び進行管理）

別添資料1、2を基に、事務局から説明

①懇話会の趣旨及び位置付けについて

おいしい水づくり計画の各種施策の取り組みや進捗について、おいしい水を期待するお客様の客観的な助言等を得るため本懇話会を設置。

本懇話会から頂いた意見・助言は、千葉県水道局政策調整会議による内部評価を経て中期経営計画事業等評価委員会に報告し評価いただく。

②懇話会の進行管理について

中期経営計画事業等評価委員会の評価・公表とあわせ、平成19年度に3回、平成20年度に2回の開催を予定。

(2) おいしい水づくり計画の策定について

別添資料3を基に、事務局から説明

なお、本資料は今年5月鉦路市で開催された「全国水道研究発表会」にて発表。

①おいしい水づくり計画の策定までの経緯（おいしい水づくり計画策定懇話会）、千葉県水道局及びお客様の意識の現状と課題の分析及び計画策定方針

②水質目標の提言、施策の展開（3つの取組み）及び主な施策

③計画の水質目標及び計画の将来目標

(3) おいしい水づくりキャンペーンの実施報告

別添資料4を基に、事務局から説明

①お客様の意識調査結果、キャンペーンの概要及びお客様に提供したい情報と機会

②取り組みのPR状況（インターネット（オフィシャルサイト）、文字メディア（県水だより・ポスター・リーフレット）、マスメディア（新聞、テレビ等）、PRグッズ（トートバック・下敷き））等

③体験機会の提供状況（浄水場見学会・まちかど水道相談実施、水道水の試飲・利き水実施、アルミボトル缶の配布）等

④今後の検討事項（浄水場見学会の実施方法、水道出前講座及び（仮称）ウォーターキッズ制度）等

(4) ウォーターメイト制度の実施報告

別添資料5を基に、事務局から説明

- ①ウォーターメイト制度の概要(お客様に自宅の蛇口における水質検査(残留塩素等)と「実際に飲んでいただいた感想や意見」を定期的・継続的に報告いただく制度)
- ②ウォーターメイトの選考について(440名の応募から各配水区域における給水末端の利用者を優先し、性別、住居形態等を考慮して60名を決定した。)

(5) 懇談

○アルミボトル缶について

(委員)

- ・アルミボトル缶を、水道局が販売する考えはないのか。
- ・給水区域内の人が集まるイベント等でPRとして配布してはどうか。
- ・自治会などを通して、町のイベント参加者を対象に配布してはどうか。
- ・アルミボトル缶に「非売品」と印字されており、これが限定感を持たせる意味でよいのでは。
- ・他の水道局では、ペットボトル水を約数百万本販売したと聞いている。しかし、ペットボトル水の原料は水源の水なので、ペットボトル水のおいしさをPRすることと、お客様の蛇口からの水道水のおいしさとは、つながっていない可能性が考えられる。

(事務局)

- ・製作したアルミボトル缶は、PR用として浄水場見学会や局のイベントに参加していただいた方を対象に配布しているが、主目的は、備蓄用として考えている。
- ・アルミボトル缶は、浄水場の浄水を原料としているもののボトル詰めの工程で、塩素を除去していることから、給水される残留塩素を含む水道水でない点が懸念される。
- ・現時点では、販売することを想定していないが、販売について検討したい。そのひとつとして、販売による収入の取扱い(活用方法)が懸念される。

○安全・安心・おいしい水づくりキャンペーンについて

(委員)

- ・水道局ホームページは、地味な印象があるが、「おいしい水づくり計画オフィシャルサイト」では、取り組み内容がわかりやすく紹介されている。アルミボトル缶のプレゼント応募があるクイズでは、回答しながら取り組みの内容がPRされており、これからも進めて行くべき。
- ・現時点では、まだ水道水に関する情報が身近なものとなっていないのではないかと。より一層おいしい水づくりの取り組みのPRを進める必要がある。
- ・利用者に浄水器の勧誘等があるとき、水道局のホームページ等で水道水の安全性等を説明できるとよい。
- ・PRのツールとして、作成したPRグッズは有効だと思う。身近の方にポタリちゃんのバックや下敷きを紹介したら大変好評だった。
- ・アルミボトル缶を配布することもよいPRだと思うが、デザインがかわいいので、飲み終わったボトル缶をマイボトルとして、家庭の蛇口の水道水を入れ冷やして飲んでいただくというPRはよいのではないかと。
- ・PRする内容に、水源を汚さないための方法を利用者に啓発をしてはどうか。
- ・オフィシャルサイトの閲覧数やクイズの応募者が増加している等、一定のレスポンスが得られており、効果が目に見えている感がある。
- ・現在のPRの内容は、現状の水道水を知ってもらうPRであり、次のステップとして、残留塩素が低減される等、計画による効果をPRするよう移行していきたい。

(事務局)

- ・オフィシャルサイトでのクイズ応募者数は増加しており、閲覧数は設置後から約3万件、となっていることから、一定のPR効果があると考えます。今後も随時更新を進め、取組み情報を提供していきたい。
- ・オフィシャルサイトにおいて、Q&Aのコーナーを設置し、お客様が安全性に不安と感じる理由についての回答を、順次掲載する予定である。
- ・作成したPRグッズ（2種類）は、平成19年度分のみ作成したことから、継続して作成するかについて、ご意見を踏まえ検討したい。
- ・提案のあったPRグッズとして、キャラクターを利用したマイボトルについても、要望を踏まえ検討したい。
- ・「水源を汚さないための方法」については、下敷きに掲載しPRしているが、今後もあらゆる場面でPRしていきたい。

○ウォーターメイト制度について

(委員)

- ・おいしい水づくりへの取り組みの一つとして認知するため、本懇話会委員の希望者にも、ウォーターメイトと同様に、自宅の水質検査をしてはどうか。
- ・ウォーターメイトによる水質検査の結果は、どのような取扱いになるのか。また公表されるのか。
- ・計画の達成率を伝えるため透明性を確保する観点で、自動水質監視装置の結果や、ウォーターメイトの水質検査結果をリアルタイムに公開して水質情報を誰でも閲覧できることを検討してはどうか。

(事務局)

- ・委員の提案のとおり、希望のあった委員には、取り組みについて理解いただくため、検査方法を説明の上、水質検査機器を貸与したい。
- ・ウォーターメイトの検査結果については、達成状況を評価するデータの一つとして活用する。なお、調査結果については集計し次回の懇話会にて中間報告したい。
- ・自動水質監視装置やウォーターメイトの検査結果を、リアルタイムに公開することについては、データの信頼性の問題等を含め検討したい。

○残留塩素の低減化について

(委員)

- ・残留塩素濃度の目標値を「0.4mg/L以下」としたのは、大変な決断だが評価したい。
- ・残留塩素の低減化を図る際に、貯水槽水道設置者では、残留塩素濃度の確保等が求められることから、貯水槽水道利用者を配慮した貯水槽水道設置者と水道局間の連携体制が必要である。
- ・残留塩素の低減化については、具体としてどのような取り組みが必要か。残留塩素の多点注入方式の導入が必要とあるが、どのように実施するのか。

(事務局)

- ・今回の懇話会は「キャンペーン」及び「お客様と協働した取組み」について議題とした。次回懇話会では、現在検討している残留塩素の低減化等「技術的取組み」について議題として説明したい。

○残留塩素の安全性について

(委員)

- ・おいしい水の定義として、水質目標を設定したと思うが、残留塩素濃度以外はほぼ達成

している現状がある。残留塩素を0.4mg/L以下にすれば、おいしくなると考えるのか。

- ・残留塩素についての安全性について確認だが、残留塩素は健康に影響がある濃度か。

(事務局)

- ・昨年度の計画策定懇話会での議論や利き水結果等を踏まえて、おいしい水の水質目標を設定し水質目標を達成した水道水では、おいしいとの声を頂いている。残留塩素濃度を含め水質目標を達成した水道水をいわゆる「おいしい」水道水と考えている。
- ・残留塩素の健康影響については、オフィシャルサイトの「水のQ&A」に掲載しPRしているが、WHO（世界保健機関）によれば、残留塩素濃度が5mg/L以下の濃度であれば健康に影響がなく、通常水道水に含まれる濃度では、健康に影響がない。

○その他事項

(委員)

- ・おいしい水づくり計画の主な施策のスケジュールと概算事業費について予算を確認したところ、平成22年度までの予算からそれ以降の予算額を見た時に、減額されていることから、計画を推進する姿勢が見えない。予算を強力に注入し見える形での施設整備等に取り組んでいただきたい。
- ・おいしい水づくり計画では、計画期間が10年間で、各年度における取組み内容が、概要のみで明確でない。より具体的に各年度の取組み内容を明示願いたい。
- ・浄水場の出口の水道水では、利き水の体験からおいしいと感じているが、家庭に給水される水道水では、おいしくないという現状がある。

(事務局)

- ・「おいしい水づくり計画」に掲載した概算事業費について、提案を踏まえて検討したい。
- ・今年度における具体の「おいしい水づくり」への取組みについては、次回懇話会で議題として説明したい。
- ・家庭に給水される水道水がおいしいとの声をいただくよう、技術的取組みの「おいしい水をおいしいまま届ける」にある施策を推進したい。

(6) その他

(事務局)

次回懇話会は、10月上旬を予定している。後日、日程調整をさせていただく。

(了)